

◆ 2022 年度 活動 報告 シ ー ト ◆

団体名：大谷川源流の会
代表者：会長 鈴木 勝行
URL :

25A-23

1. 活動が必要とされた状況

圏央鶴ヶ島IC近くにあった県立農業大学校が移転し、当地への工場誘致が決まったが、敷地内には浅層の湧水が湧いており、その保全が重要な課題となった。湧水は鶴ヶ島市内を流れる大谷川の水源であり、水源周辺の樹林地は雨水を涵養する貴重な環境であると同時に、武蔵野の雑木林の景色を留める貴重な空間でもあった。しかし、敷地内の竹林や雑木林は非常に荒れた状態だったため、10年前から整備活動を続けてきた。2020年に埼玉県による緑地整備が終了し、鶴ヶ島市に移管された。2021年4月に6.6haの鶴ヶ島市グリーンパーク「太田ヶ谷の森」として開園し、市と活動団体で管理に関する協定書を交換した。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

4月に「太田ヶ谷の森」（以下園）内にある竹林でタケノコ掘りイベント開催。40名の参加者があり、子供たちも夢中にタケノコを掘っていた。5月に入ると園内は野草で覆われ始めたので植樹した旧牧草地を中心に3回除草作業を行った。（参加者合計29名）



タケノコ掘りイベント(4月17日)

5月と10月の2回、南中学校脇の大谷川で水路内に不法投棄されたゴミの回収作業を行なった。（参加者合計21名）



夜の昆虫観察会(7月24日)

6月から11月の間、園内外は野草に覆われたので、旧牧草地や下流水路脇の除草作業を4回実施した。（参加者合計57名）

7月24日、夜の昆虫観察会を開催し、夜の昆虫の生息の様子を見てもらった。80人の親子連れの参加があった。（参加者7名）



植樹準備の除草作業(10月2日)

9月に倒れたコナラの解体処理作業を行なった。（参加者11名）

11月と2月に、育成していた幼木を掘り出し、ササを切り払った南側境界の空地に約70本植樹した。（参加者36名）



南側空地の植樹作業(2月5日)

12月に竹林の整備と門松制作に向けてモウソウダケを切り出し、年末に門松を7基制作し、市民センター等に設置した。（参加者合計55名）

3. 活動の成果

5月から11月までの園内外の除草作業で、昨年植樹した幼木を保護し、新たな植樹エリアを作ることができ、外来植物の駆除もすることができた。タケノコ掘や夜の昆虫・野鳥観察会等のイベントを開催することで、地域の多くの人に園内にある里山の自然環境を紹介することができた。モウソウダケ・マダケ林を整備・管理をすることで、昔あった恵みを活かすことができた。幼木の植樹を隣の小学校と連携して行うことで、自然と地域との繋がりを作ることができた。

4. 今後に残された課題

スタッフの高齢化が進み、管理作業とりわけ夏場の除草作業が大きな課題である。カシノナガキクイムシの食害が広がり、コナラの立ち枯れが多発し、その処理が大変になった。今後若い人を迎え活動を継続していくためには、資金的な裏付けが大切だと思われる。